



2020年3月期

第2四半期決算説明会資料



2019年11月5日

ヤマハ株式会社

決算発表のポイント

決算概要

()数値は前年同期比

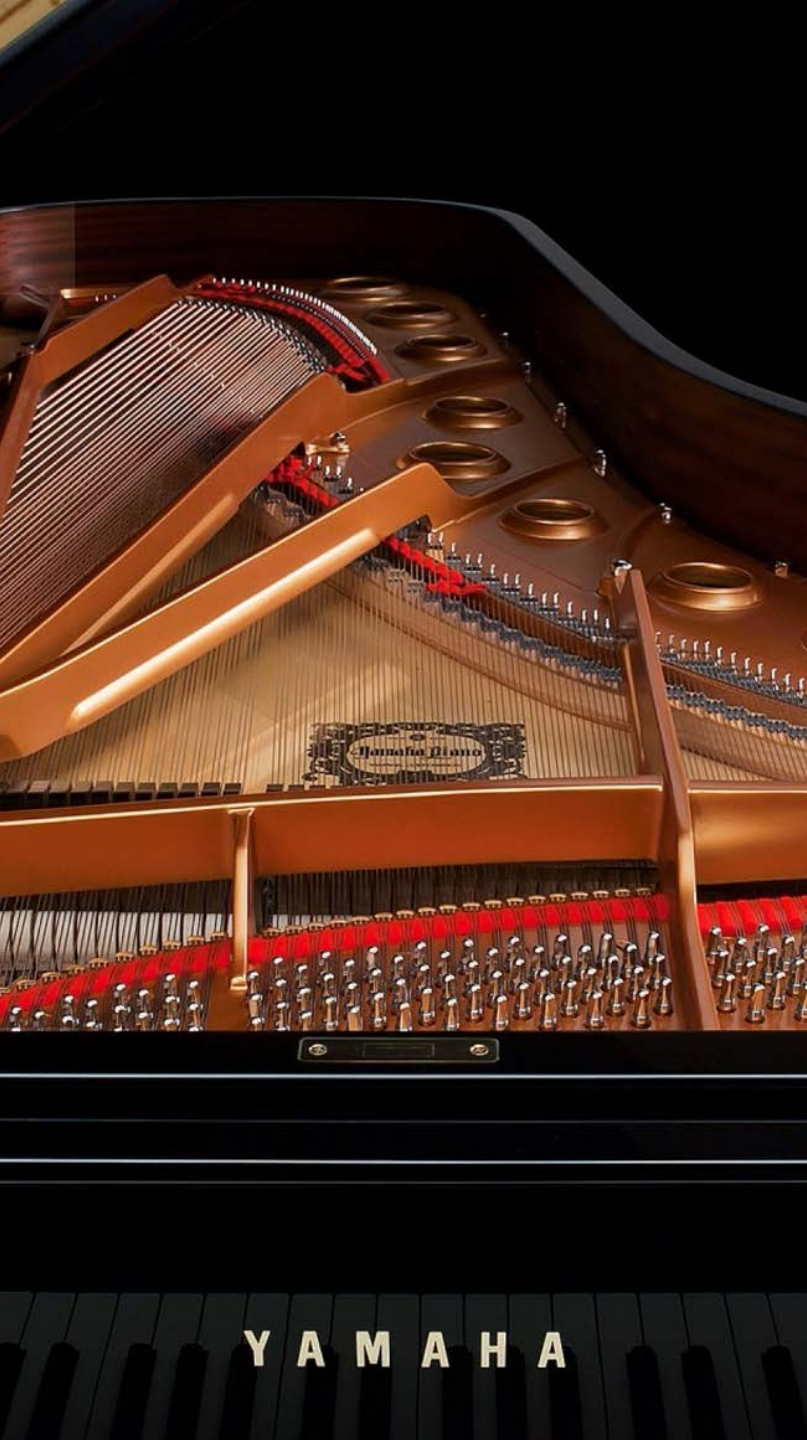
【20/3月期 上期実績】

- ・ 対前年2Qは楽器事業堅調により増収増益
- ・ 対前年上期は減収減益。為替影響、部品・装置の市況悪化継続が主因
- ・ 売上収益2,085億円(▲2.2%)、事業利益261億円(▲2.1%)、事業利益率12.5%(±0p)

業績予想

【20/3月期 通期予想】

- ・ 為替影響、部品・装置市況悪化により下方修正も、対前年増収増益を予想
- ・ 売上収益4,350億円(+0.1%)、事業利益530億円(+0.5%)、事業利益率12.2%(+0.1p)



Y A M A H A

1. 決算概要

業績概要

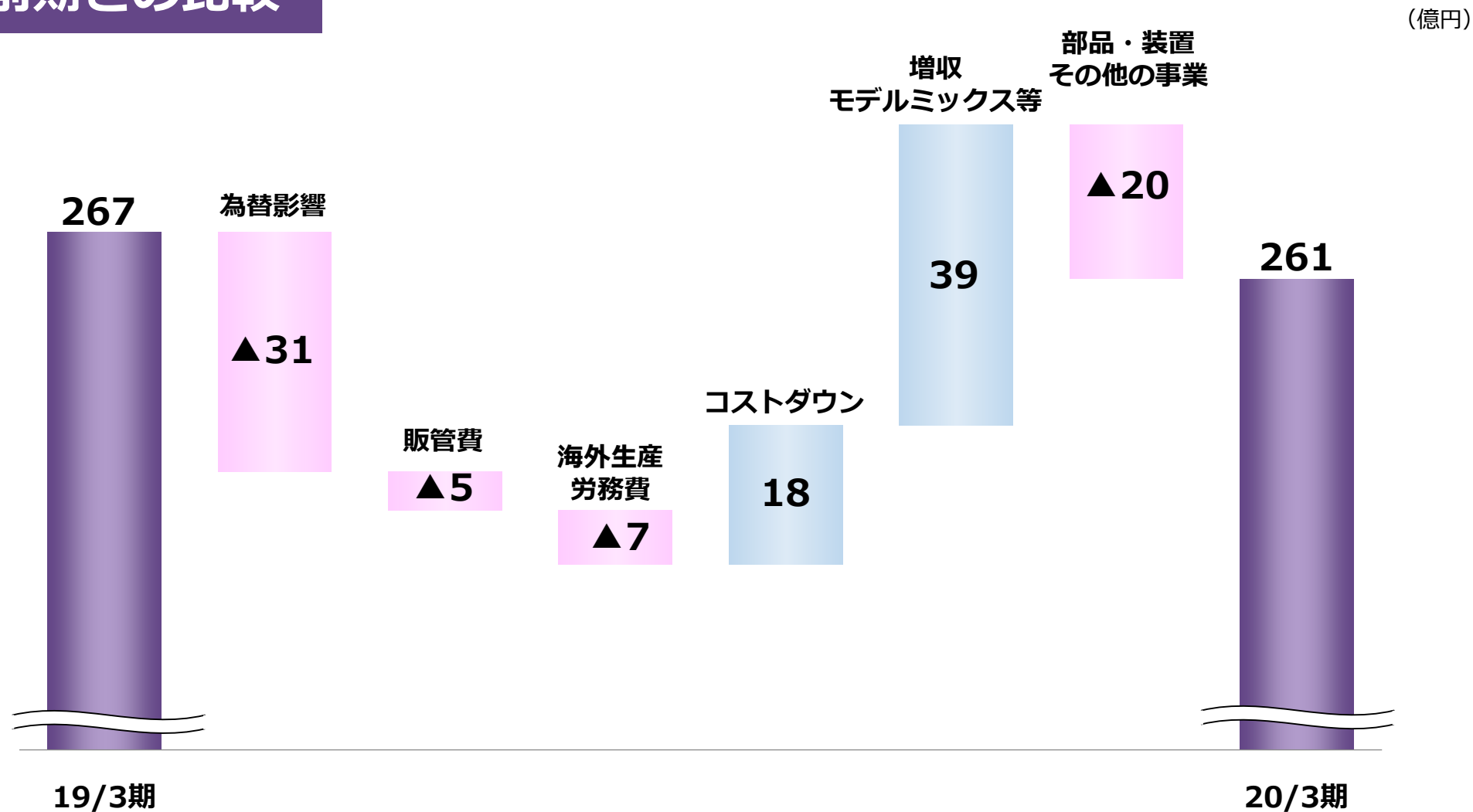
(億円)

	19/3		20/3		前期比	
売上収益	2,133		2,085		▲48	▲2.2% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)	267 (12.5%)		261 (12.5%)		▲6	▲2.1%
当期利益 ^{*1}	212		211		▲1	▲0.3%
						*2 +0.9% (為替影響除く)
為替レート (円)						
売上収益 (期中平均)	US\$	110	109			
	EUR	130	121			
利益 (決済レート)	US\$	110	109			
	EUR	132	124			

*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

事業利益増減要因

前期との比較



事業別業績

(億円)

		19/3	20/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	1,378	1,387	+8	▲48
	事業利益	204	223	+19	▲23
	事業利益率	14.8%	16.1%	+1.3P	
音響機器事業	売上収益	563	545	▲18	▲19
	事業利益	41	37	▲4	▲8
	事業利益率	7.3%	6.7%	▲0.6P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	191	153	▲38	0
	事業利益	22	2	▲20	0
	事業利益率	11.3%	1.2%	▲10.1P	

通期業績予想

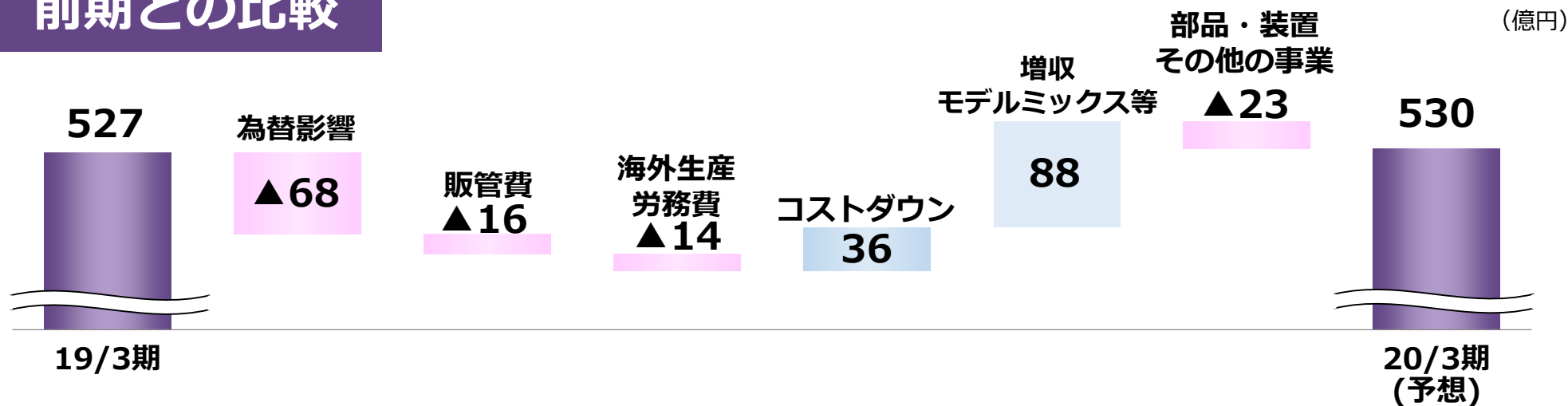
(億円)

		19/3	20/3	前期比	
売上収益		4,344	4,350	+6	+0.1% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)		527 (12.1%)	530 (12.2%)	+3	+0.5%
当期利益 ^{*1}		403	415	+12	+2.9%
為替レート (円)					^{*2} +3.2% (為替影響除く)
売上収益 (期中平均)	US\$	111	109	【3Q以降の想定為替レート】 US\$: 110円 (前回想定 110円) EUR : 120円 (前回想定 125円)	
	EUR	128	121		
利益 (決済レート)	US\$	111	110		
	EUR	131	122		

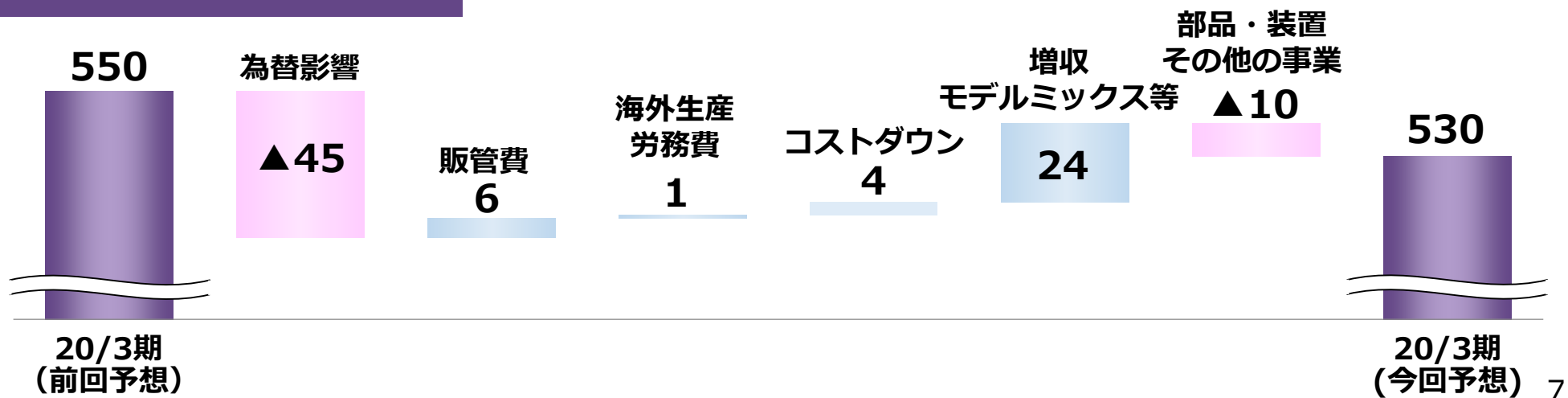
*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

事業利益増減要因

前期との比較



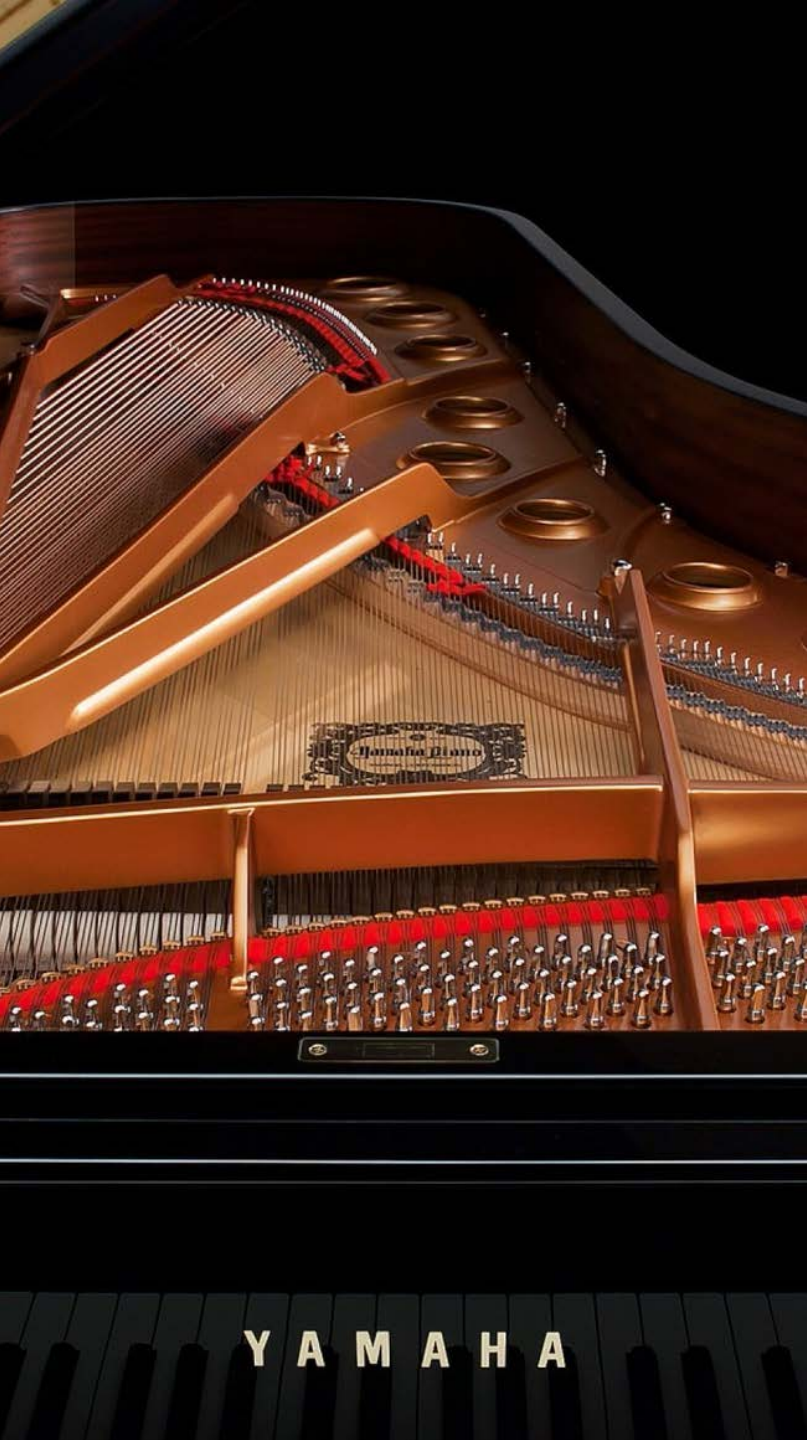
前回予想との比較



事業別通期業績予想

(億円)

		19/3	20/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,795	2,810	+15	▲92
	事業利益	408	430	+22	▲49
	事業利益率	14.6%	15.3%	+0.7P	
音響機器事業	売上収益	1,201	1,210	+9	▲39
	事業利益	96	100	+4	▲19
	事業利益率	8.0%	8.3%	+0.3P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	348	330	▲18	▲1
	事業利益	23	0	▲23	0
	事業利益率	6.7%	0.0%	▲6.7P	

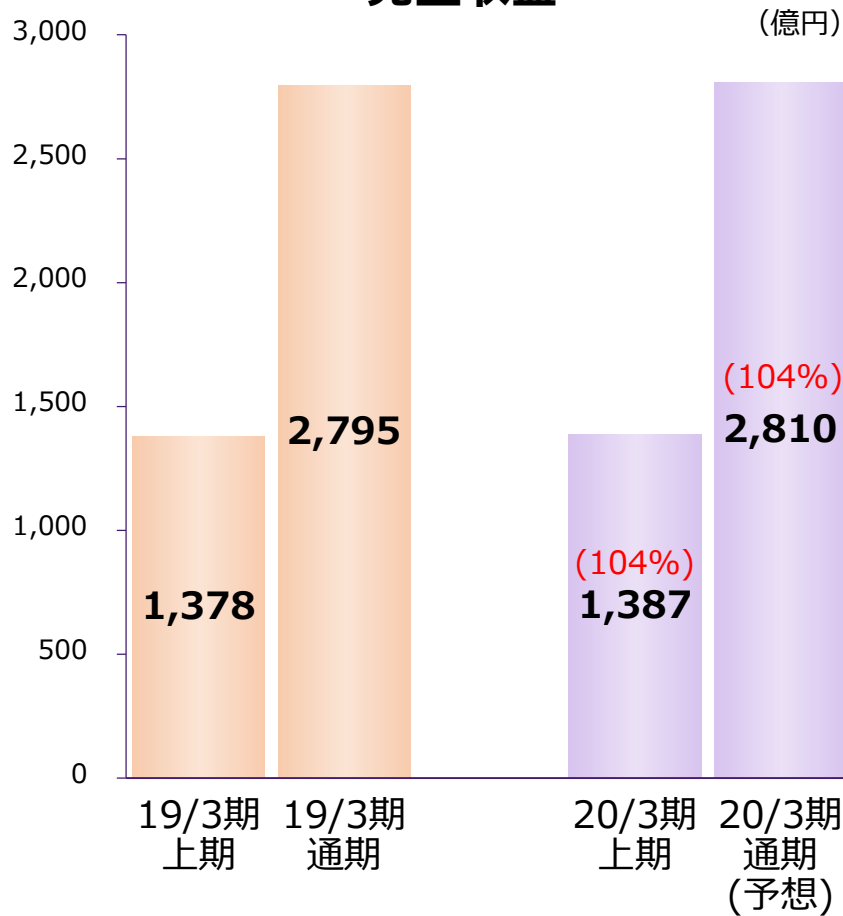


Y A M A H A

2. 事業別概要

売上収益・事業利益

売上収益



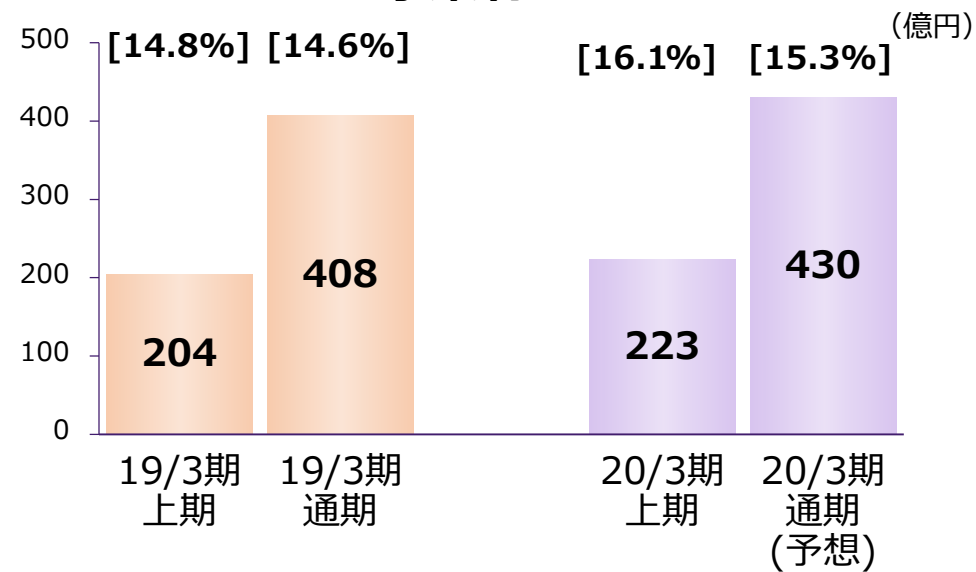
[上期状況] 管楽器除き全商品カテゴリー一前年上回り堅調

- ・ピアノは中国2桁成長で堅調、電子楽器は全地域で前年上回り堅調、管は日本が苦戦、ギターは全地域で前年上回り2桁成長
- ・北米は電子楽器・ギター中心に全体堅調、欧州は復調継続、中国は全商品好調で二桁成長、新興国堅調さ継続、日本は前年下回る

[通期見込] 全商品カテゴリーでの成長を予想

- ・ギターの高い成長、ピアノ、DPの堅調な伸びを予想
- ・中国の2桁成長、北米・新興国は堅調、欧州復調を予想

事業利益



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は事業利益率

主要商品 販売状況

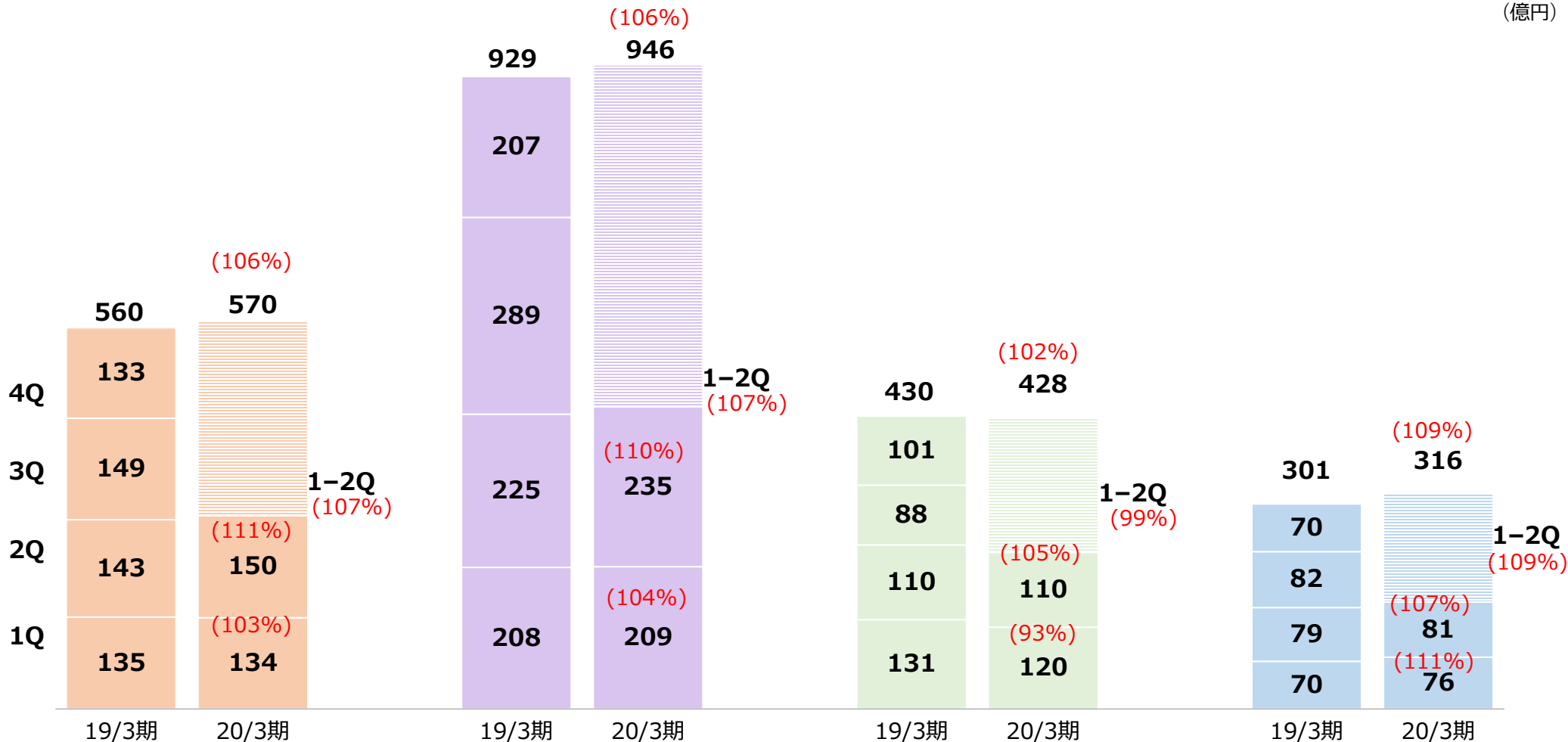
ピアノ

電子楽器

管楽器

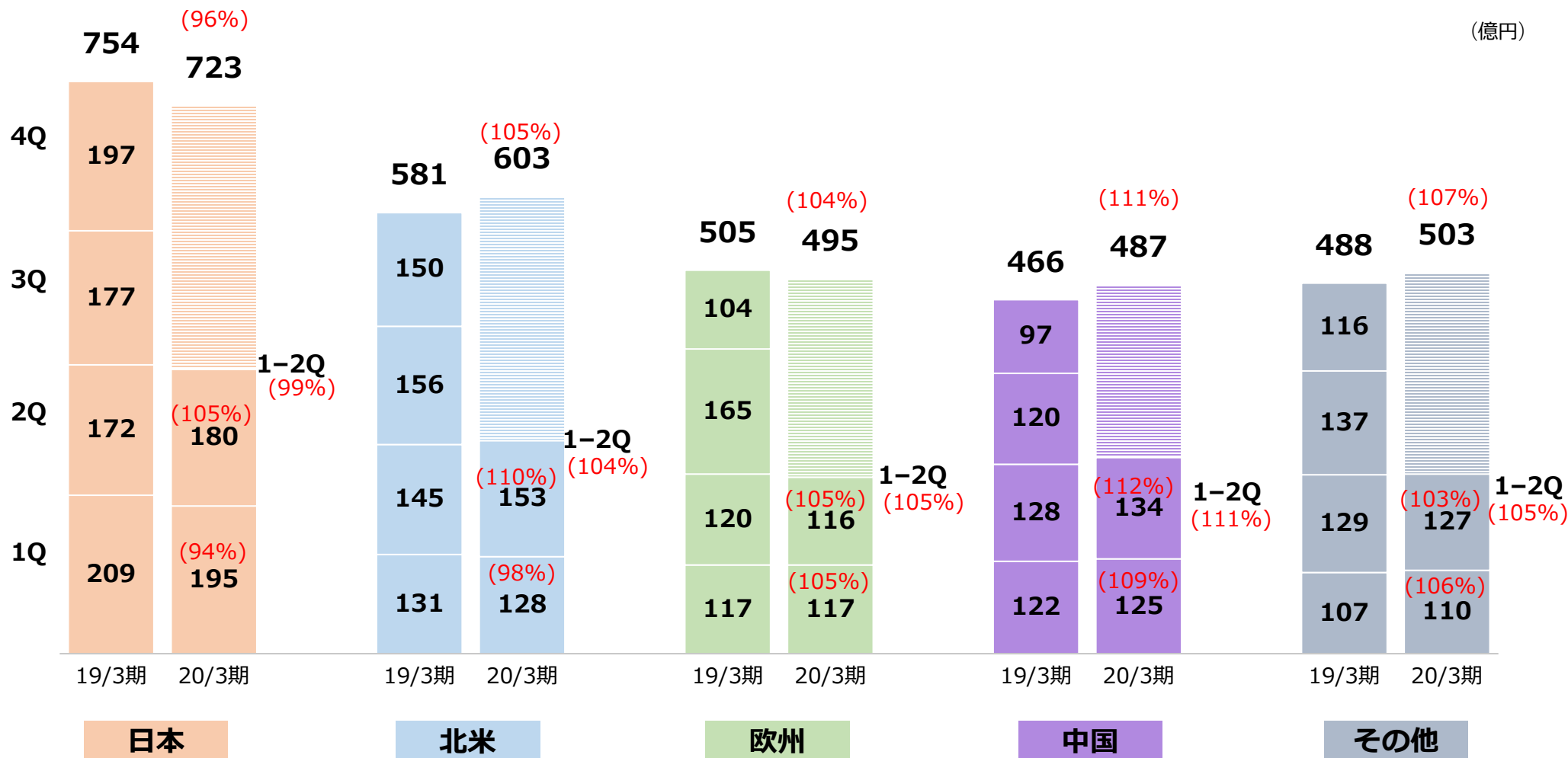
弦打楽器

(億円)



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

地域別販売状況



※ソフト、音楽教室等を含む

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

新興国での成長 — インド市場

成長市場に向けた戦略商品の市場導入

インド市場専用新モデル



ポータブルキーボード『PSR-I500』

インド新工場で初めて立ち上げたインド市場戦略商品の新モデル



個性際立つ商品の開発

幅広い技術を融合した個性的な商品群

アコースティックギター
『FG/FS Red Labelシリーズ』



ギターアンプ
『THR-IIシリーズ』



カジュアル管楽器
『Alto Venova』



自然なサウンドを生み出す新PUシステムを搭載



国内外で好評の「THR」が8年ぶり新モデル



話題のVenovaにアルトバージョンが登場

個性際立つ商品の開発

ブランド価値の高揚、ヤマハの成長を支えるYamaha Design

～2019年度グッドデザイン賞* 受賞商品～



アコースティックギター『STORIA』

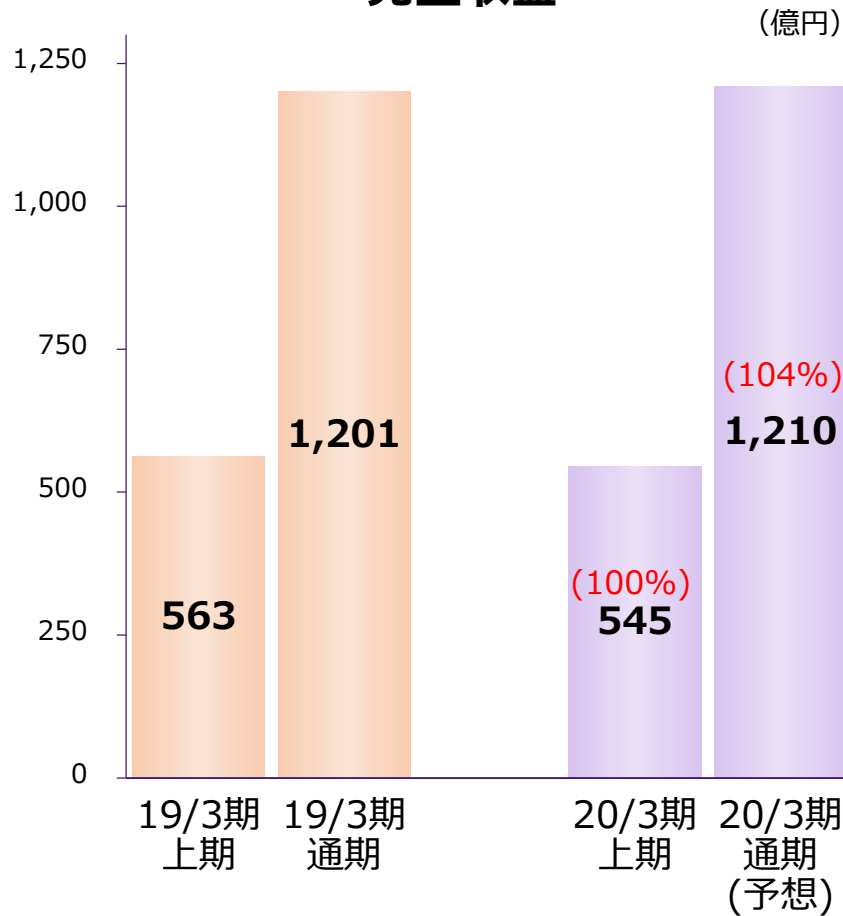
多様なライフスタイルに寄り添うデザイン、演奏性、音色を追求

ステージピアノ『CP88/CP73』

「本物」の音色、鍵盤タッチ、直感的な新インターフェイス

売上収益・事業利益

売上収益



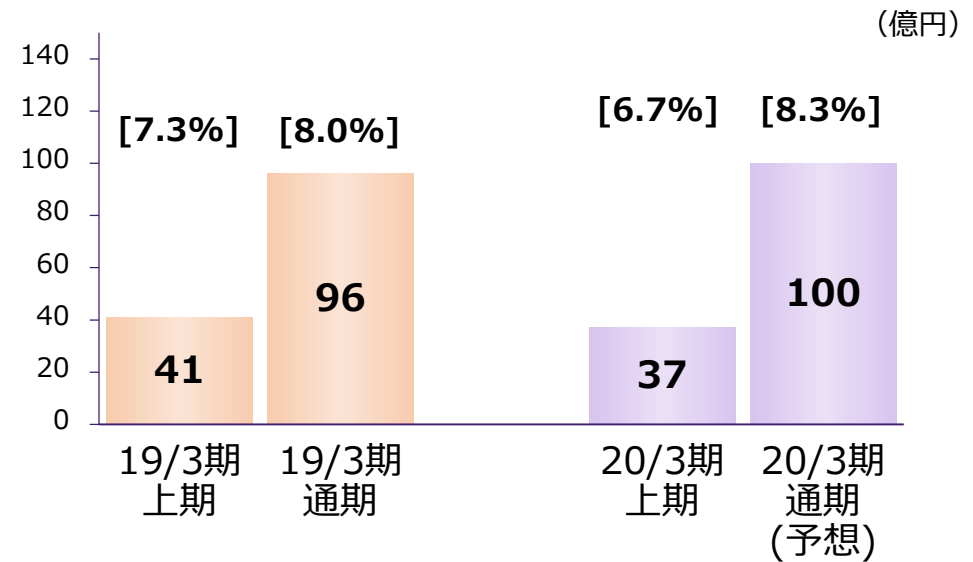
[上期状況] AVは地域跛行で前年下回るも、PAは堅調さ継続

- AVはレシーバー需要変化、新興国需要ダウンで前年下回る
 - PAは新商品効果、音楽制作の好調、日本の設備音響市場好調により全地域で前年を上回り堅調。
 - ICTはNW機器の期ずれ、UCは中国でのOEM減で前年下回る
- [通期見込] PAの伸長、AVの復調により成長を予想

- AVはサウンドバー、MusicCast伸長により復調を予想
- PAは新商品効果、音楽制作の好調継続により堅調を予想
- ICTはNW機器復調もUCは中国でのOEM減を予想

*NW:ネットワーク機器、UC:会議システム

事業利益

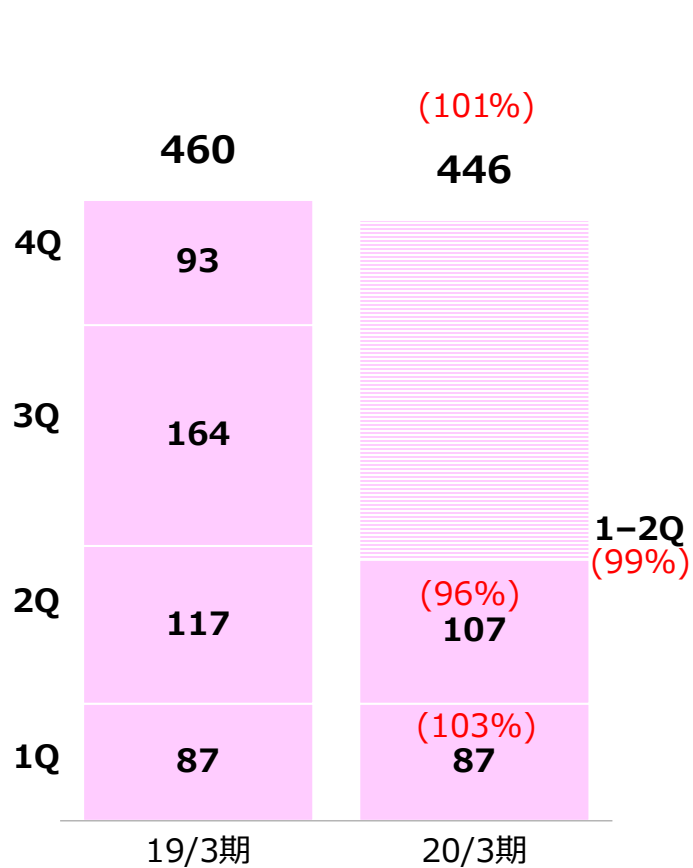


()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

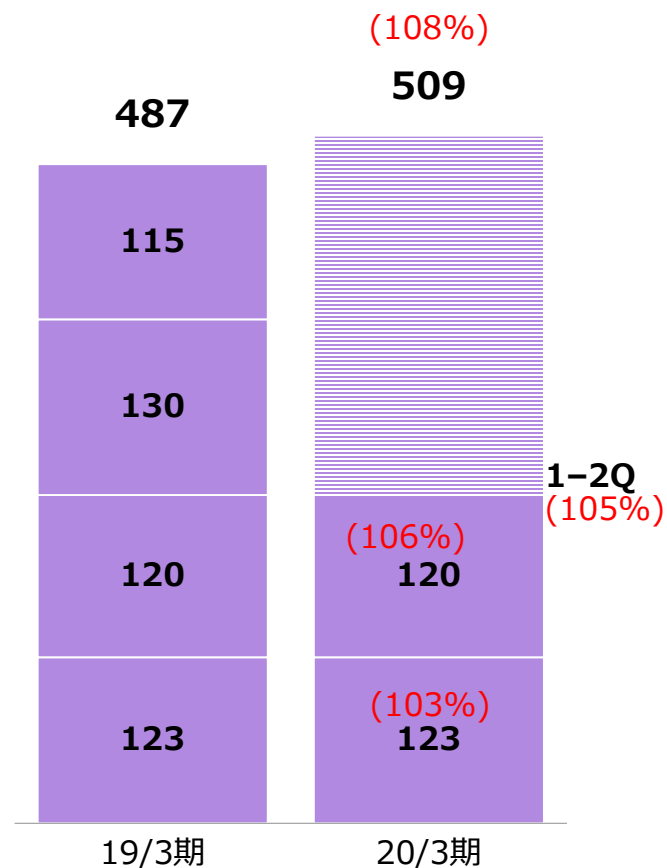
[]内は事業利益率

主要商品 販売状況

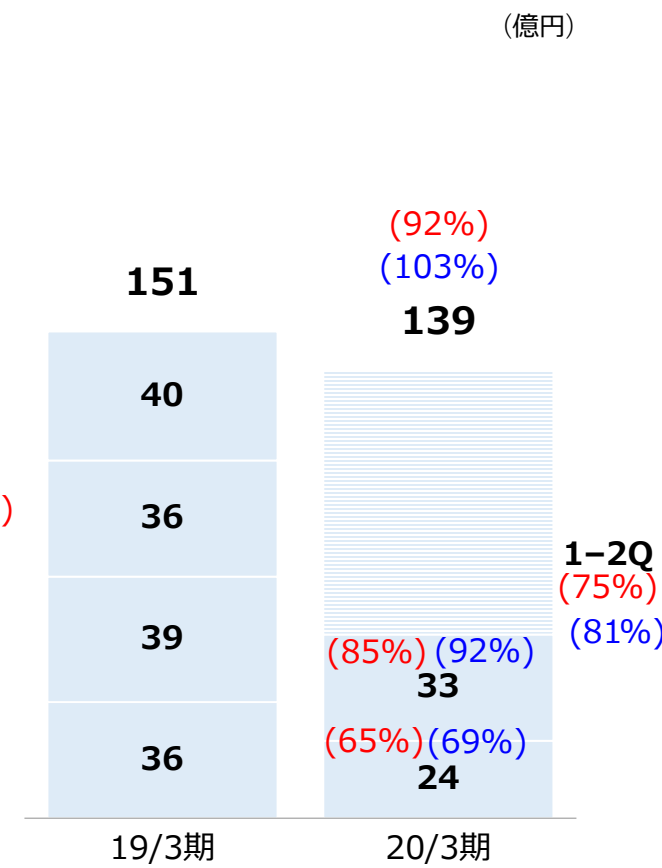
AV機器



PA機器



ICT機器



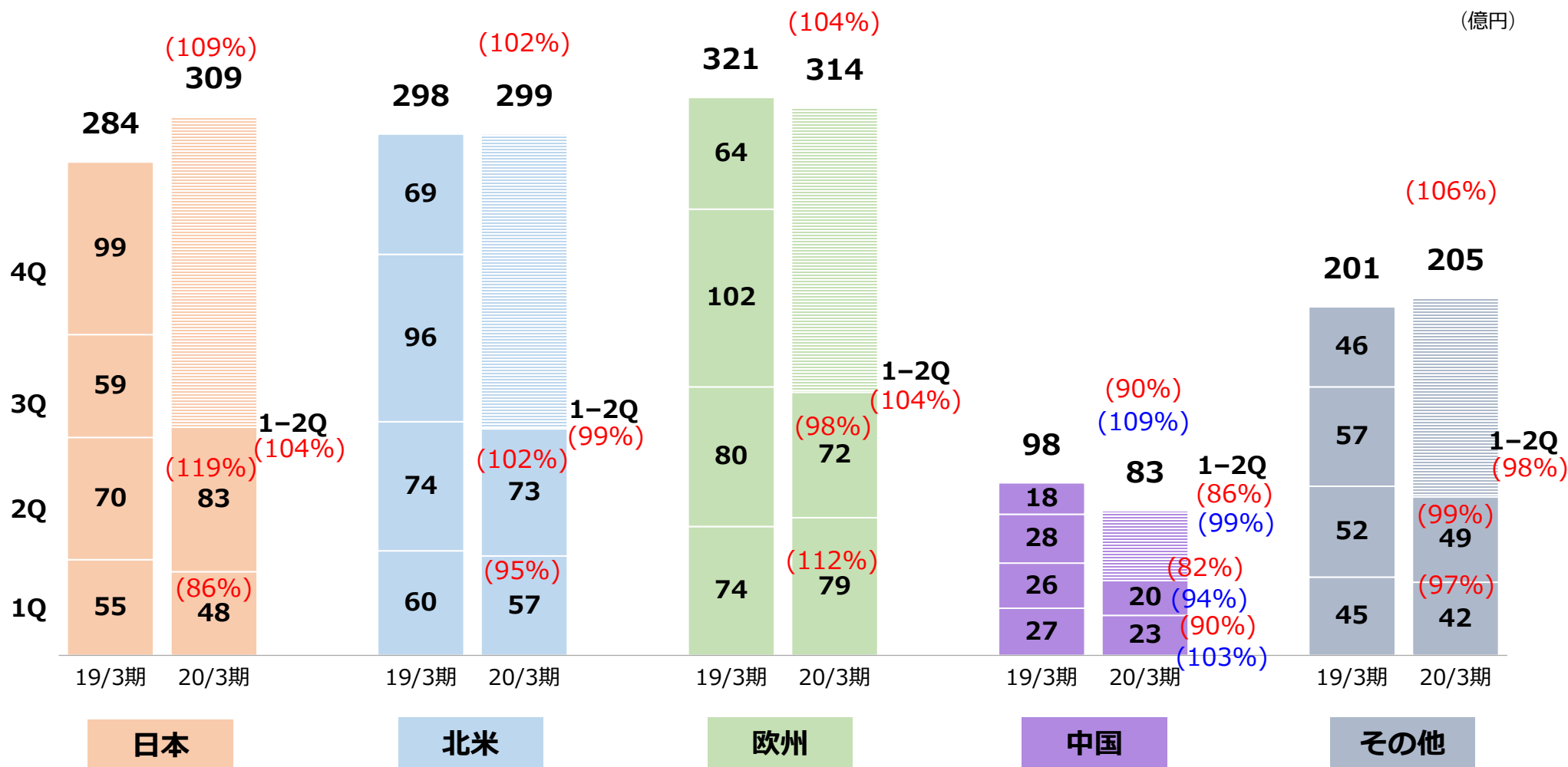
(億円)

※PA機器はハード売上収入のみ（設備工事を除く）

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

()内はOEM向けを除いた前期比増減

地域別販売状況



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

()内はOEM向けを除いた前期比増減

個性際立つ商品の開発

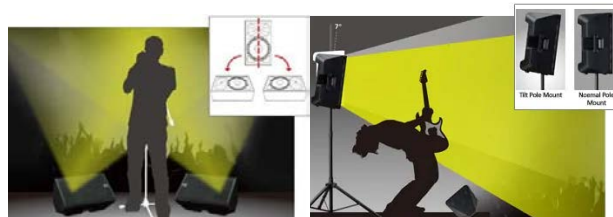
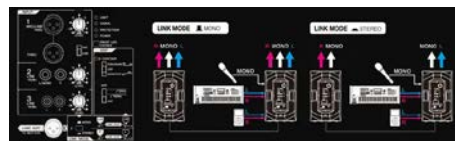
音響機器領域で多様なニーズに応える商品展開

ポータブルPAシステム
『STAGEPAS 1K』



シンプル操作で高音質のオールインワンPAシステム

パワードスピーカー
『DXR mkIIシリーズ』



軽量、高音圧、高品質な「DXR」の新ラインアップ

スピーカーシステム
『VXC2FB』 『VXC2FW』



薄型シーリングスピーカーの最小口径モデル

サブウーファー
『VXC8SB』 『VXC8SW』



当社初となる天井埋め込み型のサブウーファー

制限がある場所でも内装に溶け込み、高音質を実現

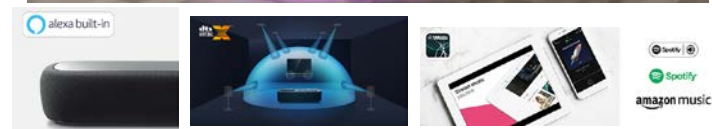
個性際立つ商品の開発

築き上げた音を継承し、機能性のさらなる進化により使いやすさを追求

フロントサラウンドシステム
『YAS-109』



フロントサラウンドシステム
『YAS-209』



オープンスペースでも、会議室でも。
柔軟な働き方、快適なコミュニケーションを実現



ユニファイドコミュニケーションスピーカフォン
『YVC-330』



雑音を抑制する新技术「SoundCap」を搭載



スピーチプライバシーシステム
『VSP-2』



設置性を高め、情報マスキング技術を強化

個性際立つ商品の開発

「日経コンピュータ 顧客満足度調査 2019-2020」 ネットワーク機器部門において4年連続で第1位を獲得

ヤマハは、「日経コンピュータ 2019年2月21日号 パートナー満足度調査 2019 ネットワーク機器部門1位」に続いて、「日経コンピュータ 2019年8月22日号 顧客満足度調査 2019-2020 ネットワーク機器部門」において第1位を獲得しました。



※「運用性」「サポート」「コスト」が顧客企業から高い評価をいただきました。



※システムインテグレータやコンサルティング会社などのパートナー企業から高い評価をいただきました。

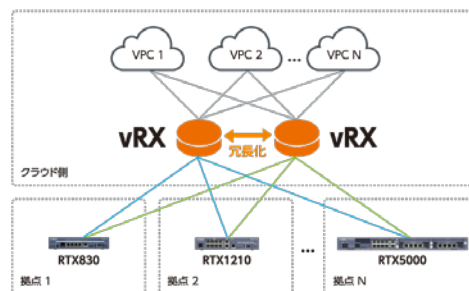
ギガアクセスVPNルーター『RTX830』



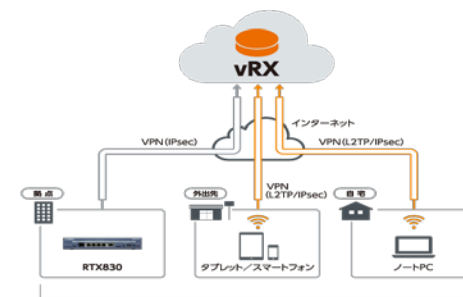
企業向けルーターの定番ハードウェア

仮想ルーター『vRX』

これまでハードウェアとして提供してきたヤマハルーターの標準的な機能を搭載したソフトウェアルーター



複雑なネットワークをかたんに構築可能

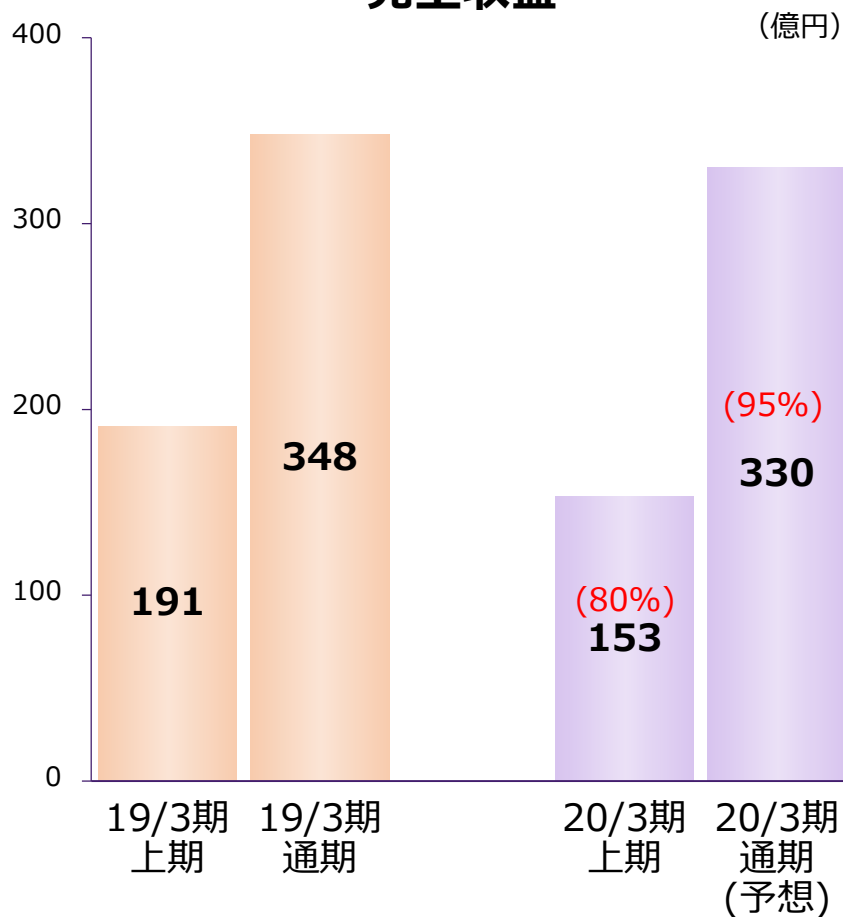


動的IPアドレスやプライベートIPアドレスが割り当てられた機器

スマホやタブレットとも直接VPN接続可能

売上収益・事業利益

売上収益



[上期状況]

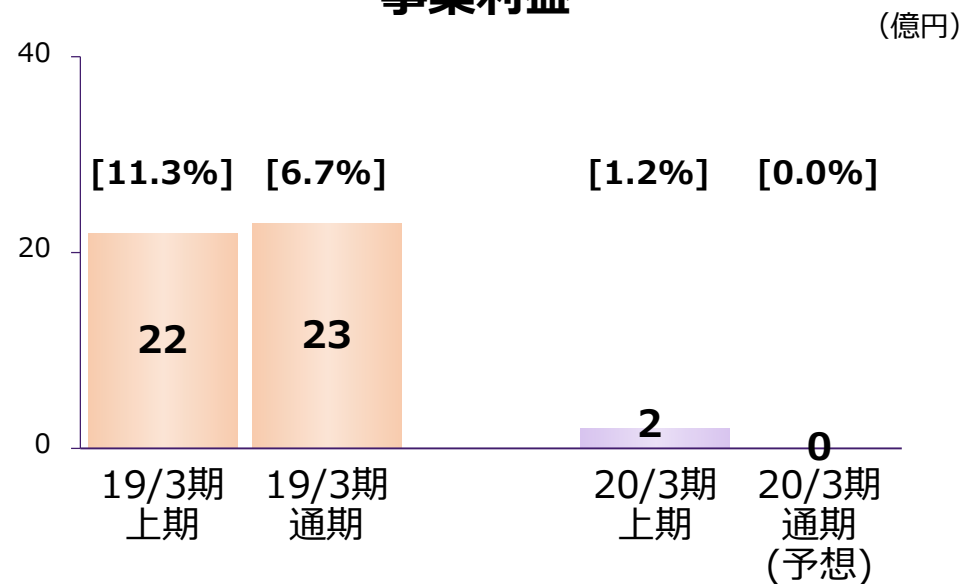
・FA機器は想定通り市況悪化続き、特需の前年に及ばず

[通期見込]

・電子デバイスはアミューズメント復調により前年上回る予想

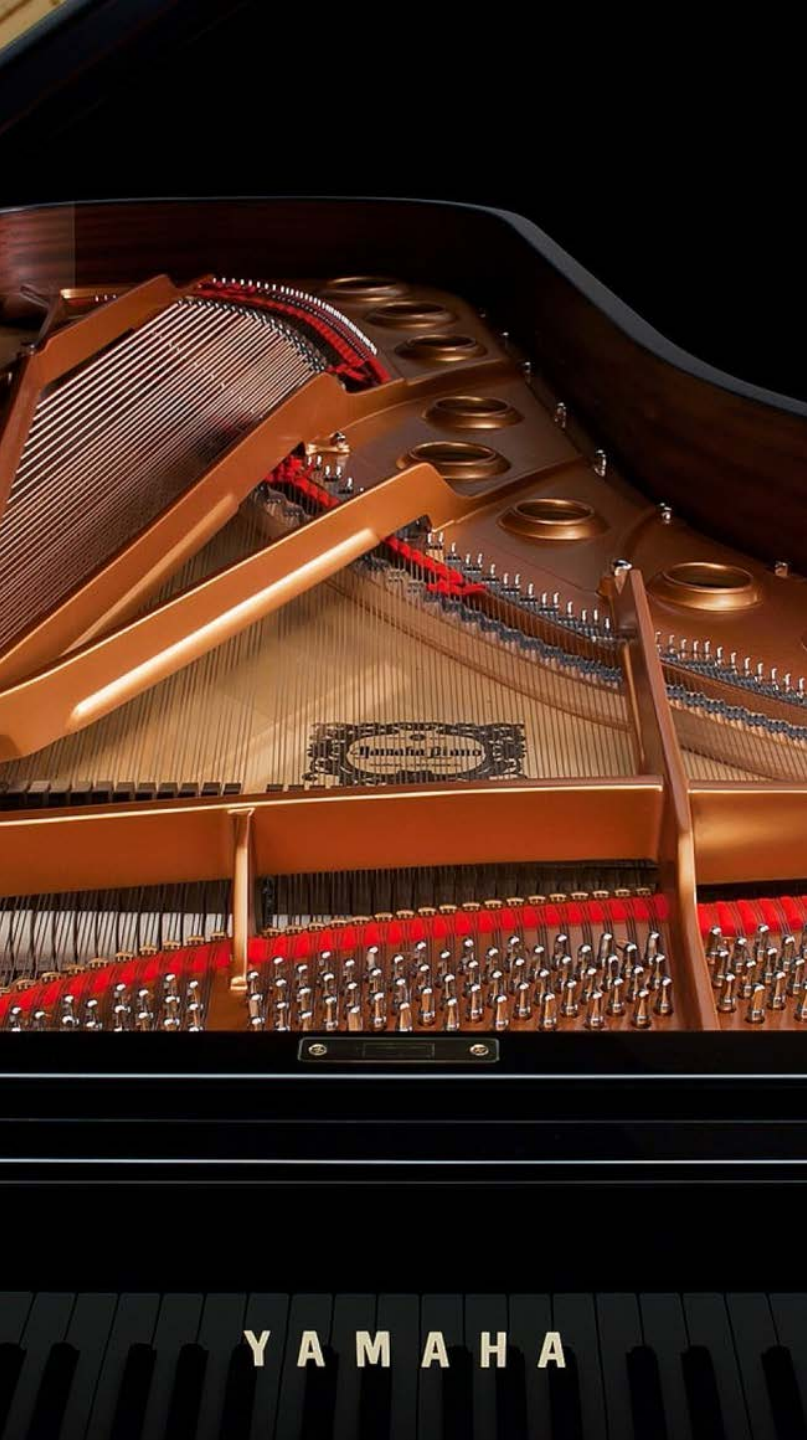
・FA機器の市況悪化が進み通期予想を下方修正

事業利益



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は事業利益率



3. その他財務数値

Y A M A H A

貸借対照表

	19/3末	20/3 上期末	増減	20/3末 (予想)
現金及び現金同等物	958	1,037	+79	1,121
営業債権他	653	664	+11	652
その他金融資産	105	83	▲22	83
棚卸資産	1,010	1,061	+51	990
他流動資産	101	72	▲29	73
非流動資産	2,331	2,259	▲72	2,401
資産計	5,159	5,176	+16	5,320
流動負債	1,004	1,104	+100	1,006
非流動負債	565	523	▲42	523
資本計	3,590	3,549	▲41	3,791
負債及び資本計	5,159	5,176	+16	5,320

(億円)

※当社は、2019年11月1日開催の取締役会において自己株式取得に係る事項を決議いたしました。
 当期予想については、当該自己株式の取得の影響を考慮しておりません。

自己株式取得

【理由】 株主還元と資本効率の向上を図るため

【取得期間】 2019年11月5日～2020年3月31日

【取得総数】 400万株（上限とする）

発行済株式総数(自己株式除く)に対する割合2.2%

【取得総額】 150億円（上限とする）

【取得方法】 東京証券取引所における市場買付

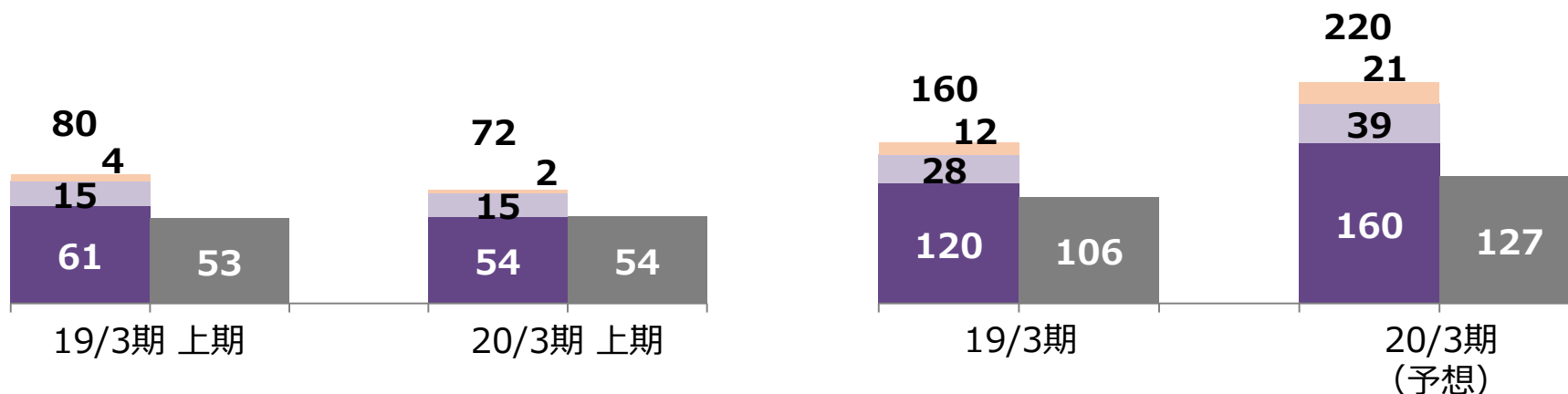
※2019年9月30日時点の発行済株式総数（自己株式除く） 178,356,118株

設備投資額・減価償却費/研究開発費

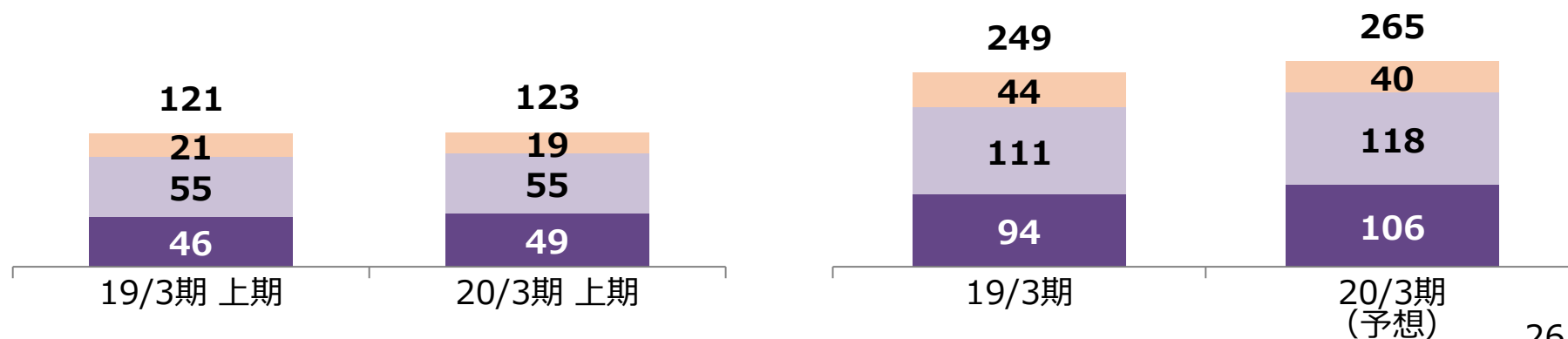
設備投資額/減価償却費

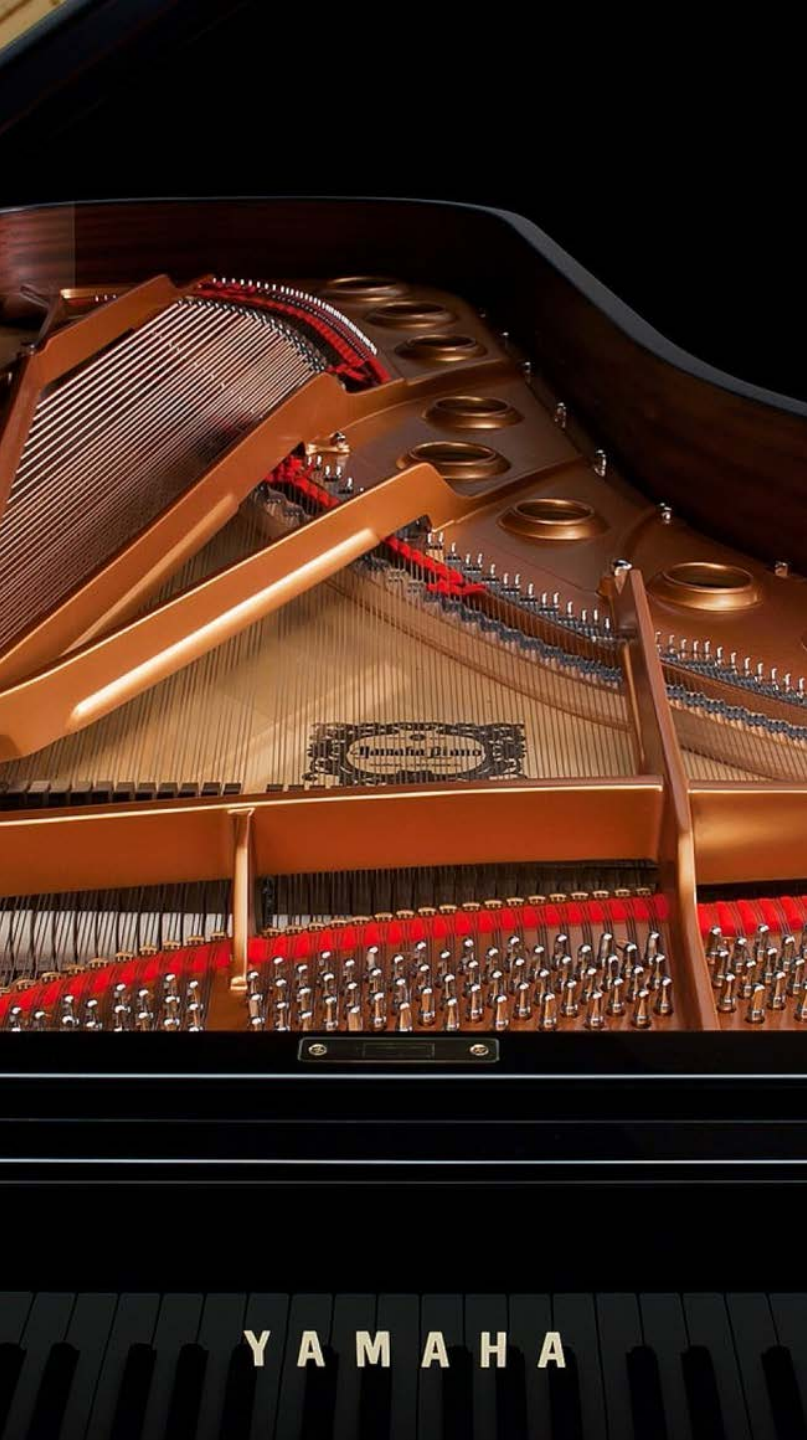
(億円)

- 減価償却費
- その他
- 音響機器
- 楽器



研究開発費





4. ESGの取り組み

Environment 環境

温室効果ガス削減目標で「SBTイニシアチブ」の認定を取得、 TCFD提言への賛同も表明 (2019年6月)



ヤマハ株式会社は、中長期的な温室効果ガス削減目標において、国際的な環境団体であるSBTイニシアチブより認定を取得するとともに、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明しました。

ヤマハグループの温室効果ガス削減目標 [2017年度比]

Scope1+2^{*1} : 2030年度までに32%削減 (2050年度までに83%削減)
 Scope3^{*2} : 2030年度までに30%削減

*1 Scope1 : 燃料使用等による自社施設からの直接排出、Scope2 : 自社が購入したエネルギー（電気、蒸気等）の使用による間接排出

*2 Scope3 : Scope1,2以外の自社バリューチェーンからの間接排出（原材料・部品調達、輸送、製品の使用等）

Social 社会

言語や聴力への不安がない社会づくりの実現を目指す

「SoundUD* 推進コンソーシアム」による幅広い取り組みと評価



東京都保有の施設の東京スタジアム・有明体操競技場・東京国際フォーラムなど、全12施設で『SoundUD』を活用した多言語対応の環境整備を開始（2019年8月）

- ・東京都委託事業「都有施設における多言語対応放送機器類導入等業務委託」を受託

首都圏の鉄道、バス、エアライン等、15社が連携し、「SoundUD」を活用した多言語サービスを提供

- ・多言語アナウンスや「おもてなしガイドアプリ」による情報提供等を順次開始
- ・2020年7月までに首都圏385箇所（駅・バス・空港）で展開

「第25回 国際博物館会議（ICOM）京都大会」の全160セッションを『おもてなしガイド™』で13言語に多言語同時通訳（2019年9月）

ラジコアプリに「街の情報」機能を実装

- ・株式会社radikoとの技術提携を発表。ラジコアプリのユーザーがSoundUDを活用した機能を利用可能に。

『SoundUD推進コンソーシアム』

言語や聴力への不安がない社会づくりを実現することを目的に設立された当社を事務局とするコンソーシアム。現在では、自治体、交通機関、商業施設、エンターテインメント、競技場、放送など、業界を超えた約300もの組織が参加。



JAPAN
TOURISM
AWARDS

「SoundUD推進コンソーシアム」が「ツーリズムEXPOジャパン」が運営する「第5回 ジャパン・ツーリズム・アワード」において「デジタル活用特別賞」を受賞（2019年9月）



『SoundUD推進コンソーシアム』が「CEATEC AWARD 2019」において「トータルソリューション部門 準グランプリ」を受賞（2019年10月）

CEATEC 2019：アジア最大級規模を誇るIT技術とエレクトロニクスの国際展示会

* Sound Universal Design：音のユニバーサルデザイン 《ユニバーサルデザイン》 障害の有無や年齢、性別、人種などにかかわらず、多くの人々が利用しやすいデザイン

多様な個性が活躍できる風土づくりが評価

「PRIDE指標2019」において最高位の「ゴールド」を受賞

work with Pride



任意団体「work with Pride」が策定するLGBTなどの性的マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE指標」で最高位「ゴールド」を受賞（2019年10月）

LGBTに関するセミナー開催、LGBTのAlly（支援者）であることを表明するためのロゴ作成、LGBT相談窓口の設置、家族の定義に同性パートナーを含めるなどの就業規則や諸規程の改定、といった一連の取り組みが評価されました。



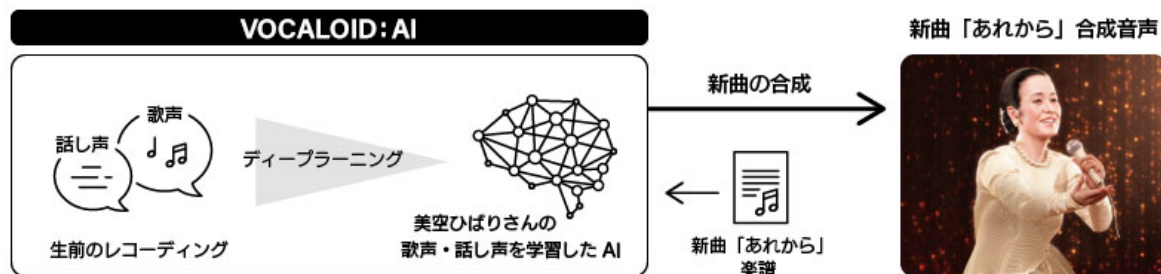
「ヤマハLGBT Ally」ロゴ

トピック

感性の視点から音楽創造の可能性を追求するAIテクノロジーの開発

美空ひばりの歌声を当社最新の歌声合成技術『VOCALOID:AI』で再現

「NHKスペシャル：AIでよみがえる美空ひばり*」に技術協力。新曲ライブの実現を支援

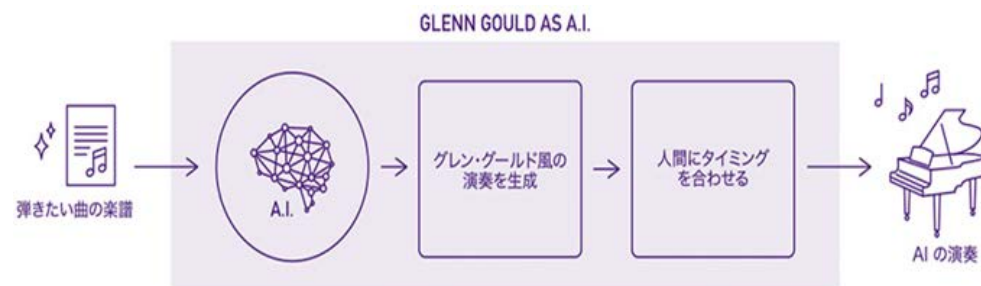


* 初回放送：2019年9月29日(日)

「Dear Glenn」プロジェクト

伝説的ピアニスト グレン・グールドの音楽表現で演奏するAIシステムを公開

世界最大規模のメディアアートの祭典「アルスエレクトロニカ・フェスティバル（オーストリア）」で披露（2019年9月）



過去の音源からグールドのタッチとテンポで演奏できるAIを開発。人間との息のあった合奏も可能。

グールドの代表曲や未演奏曲をAIで披露。学習データに無い楽曲をどう表現するかに注目が集まった。

トピック

未来技術遺産に、電子オルガン、シンセサイザー、FM音源LSIの3件が登録

(2019年9月)

独立行政法人 国立科学博物館が登録を行っている重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）に、当社が開発した『電子オルガンD-1』『デジタルシンセサイザー DX7』『FM音源LSI YM3526、YMU757』の3件が登録されました。

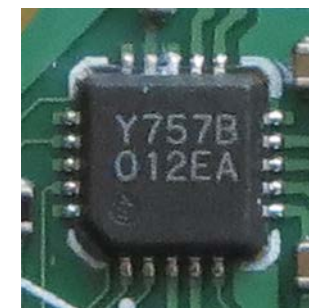
楽器およびLSIが重要科学技術史資料として登録されるのは初となります。



電子オルガン
『D-1（エレクトーン）』



デジタルシンセサイザー
『DX7』



FM音源LSI
『YM3526』『YMU757』

電子楽器の原点となった電子オルガン

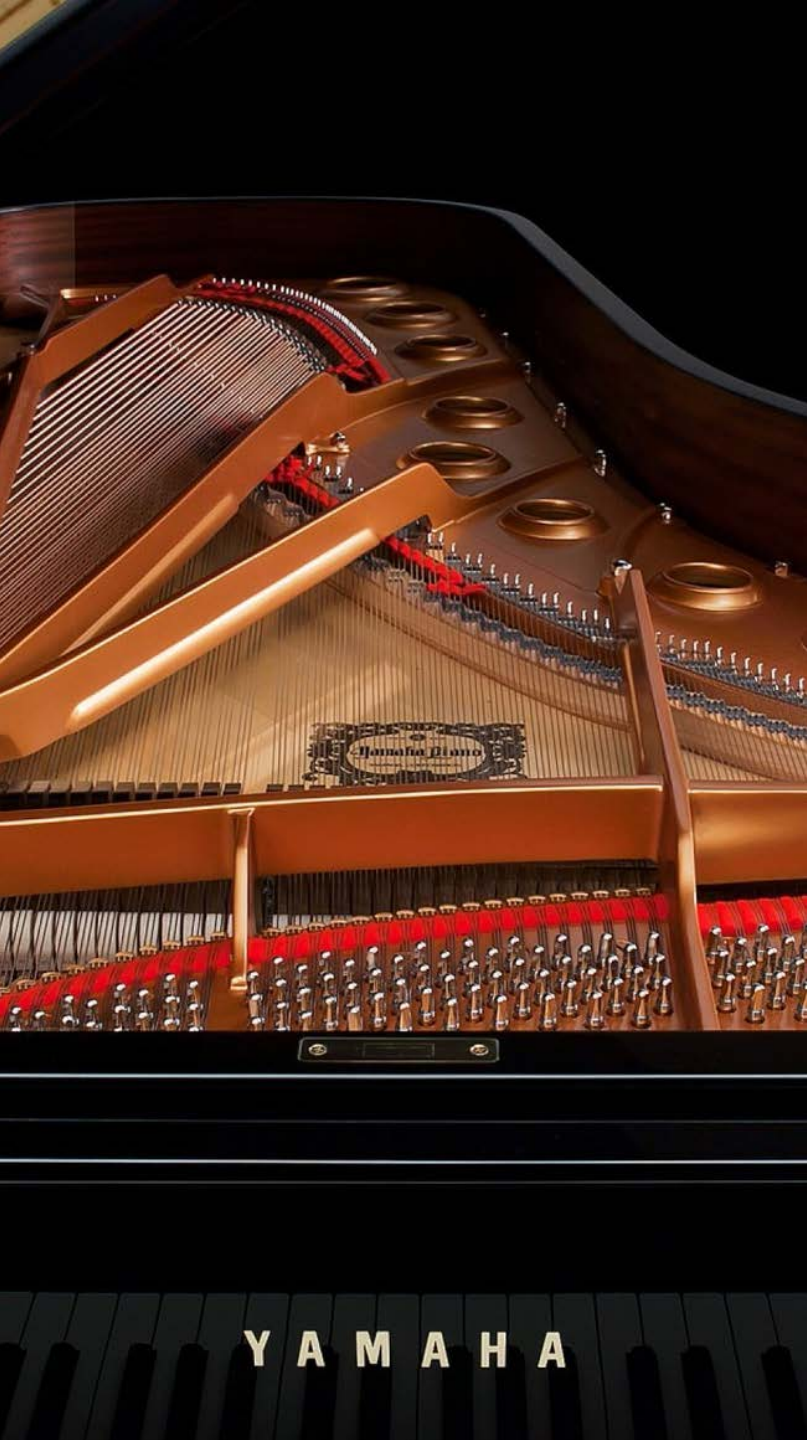
音楽シーンを変えたデジタルシンセサイザー

PC、ゲーム機、携帯電話の高音質化をもたらしたFM音源チップ

初出年：1959年

初出年：1983年

初出年：1984年（YM3526）
初出年：1999年（YMU757）



付属資料

Y A M A H A

2020年3月期 2Q業績概要

(億円)

		19/3	20/3	前期比	
売上収益		1,088	1,090	+2	+0.2% ^{*2}
事業利益 (事業利益率)		143 (13.1%)	154 (14.1%)	+11	+7.5%
当期利益 ^{*1}		117	138	+22	+18.4%
為替レート (円)					^{*2} +4.3% (為替影響除く)
売上収益 (期中平均)	US\$	111	107		
	EUR	130	119		
利益 (決済レート)	US\$	111	108		
	EUR	131	123		

*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

2020年3月期 2Q事業別実績

(億円)

		19/3	20/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	693	711	+18	▲31
	事業利益	108	124	+17	▲15
	事業利益率	15.5%	17.5%	+2.0P	
音響機器事業	売上収益	302	297	▲5	▲13
	事業利益	28	28	0	▲5
	事業利益率	9.2%	9.4%	+0.2P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	93	82	▲11	▲1
	事業利益	7	1	▲6	0
	事業利益率	7.9%	1.5%	▲6.4P	

上期 その他収支等

		19/3	20/3
事業利益		267	261
その他収益・費用収支	固定資産処分損益	0	2
	その他	▲2	12
	計	▲2	14
営業利益		265	276
金融収支計	受取配当金	20	19
	その他	7	▲6
	計	27	13
税前利益		292	289
法人所得税費用		80	76
非支配株主利益		0	1
当期利益*		212	211

(億円)

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

通期 その他収支等

		19/3	20/3 (予想)
事業利益		527	530
その他収益・ 費用収支	固定資産処分損益	▲3	2
	その他	3	13
	計	1	15
営業利益		528	545
金融収支計	受取配当金	38	37
	その他	▲1	▲12
	計	37	25
税前利益		565	570
法人所得税費用		161	154
非支配株主利益		0	1
当期利益*		403	415

(億円)

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。